

『日中社会学研究』29号「特集」及び関連口頭発表のご案内

2021年4月12日

『日中社会学研究』編集委員会
編集委員長 江口伸吾（南山大学）
「特集」担当責任者 李明伍（和洋女子大学）

日中社会学会の学会誌『日中社会学研究』29号は、下記のテーマで「特集」を組むこととなりました。つきましては投稿希望者を若干名、非会員も含めて一般公募いたします。大会報告・特集執筆の可否に関しては編集委員会での審議を経ての決定となります。

特集執筆・掲載までのプロセスは下記の通りになります。

(1) 2021年5月15日(土)までにエントリーを受け付けます。報告タイトル、要旨(800字程度)をお送りください。編集委員会でエントリーシートを検討し、報告依頼の可否を決定いたします。

(2) 2021年6月26日(土)の研究大会(オンライン開催。参加者：学会員と発表者。)で口頭発表(質疑応答含め30分程度)

*2021年6月21日(月)までに報告要旨(A4で1枚程度)をデータで提出

(3) 口頭発表の内容をもとに、「特集」論文を執筆・寄稿

*2021年9月15日(水)までに特集論文をデータで提出(2万字以内)

*論文作成要領は『日中社会学研究』投稿規定に準ずる。

*投稿された論文について編集委員会で審議の上で修正を求めることがあります。

データの提出/質問は下記、担当理事李明伍までお願いいたします。

皆様のご応募を心よりお待ちしております。

李明伍(担当理事)

E-mail: meigo@wayo.ac.jp

(「特集」のテーマ・趣旨)

(1) テーマ：高度情報化と社会統制～中国の場合～

(2) 趣旨：情報技術の発展は社会の仕組みを大きく変えている。歴史的にメディアの発展が国民国家の形成、民主化の促進に大きな影響を及ぼしてきたという側面がある。そしてここに来てメディアを含む情報技術が一定の水準に達すると権力者の恣意による社会統制が不動のものになっていく可能性が増大するという指摘もなされるようになった。中国では近年インターネットの普及により物的生活の質が向上し、ネットを介した新しい人間関係の構築が進んでいる一方、国家による情報技術を用いた社会統制が強化されている。中国における高度情報化社会の実態、そしてそこにおける国家の働きなどについての分析は、日進月歩の高度情報化の進展を考えた場合、焦眉の課題とも言えよう。
